

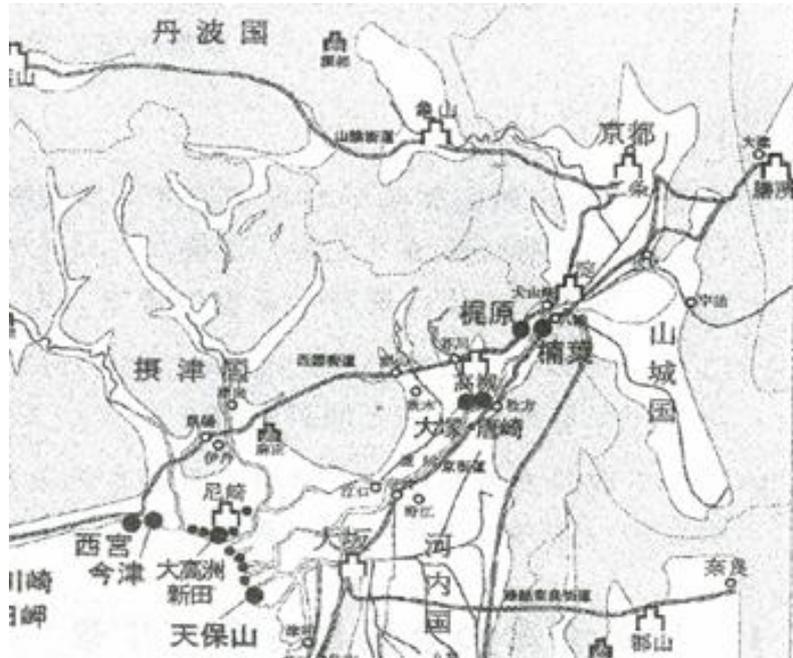
13期 北摂の歴史ロマンを愉しむ（2月②）

日時：2月27日 午前10時～12時

講師：中西 裕樹氏（京都先端科学大学 特任准教授）

教室：高槻センター街ビル

内容：「幕末の海防 梶原台場と樟葉台場」



(要旨) ■はじめに

- ・18世紀後半、日本近海に異国船が出現し、全国に約1000の台場が築かれた。
うち、上方に築かれた梶原台場と樟葉台場を紹介する。

■大阪湾岸と台場と築造の背景

◎江戸湾の品川台場

- ・ペリー提督の再来航に備え品川台場を築いた。

◎大坂湾周辺では・・・

- ・紀州藩－和歌山城下はじめ約30か所
- ・明石藩－舞子周辺の3か所
- ・徳島藩－淡路島の由良浦生石・六本松
- ・大阪湾では江戸湾とは緊急度が違うとして築造をはじめなかった。

◎プチャーチン（ロシア）の大阪湾来航

- ・開国の近道、聖域京都（＝朝廷）に近い大阪湾に侵入、天保山に停泊。
- ・孝明天皇がプチャーチンの退散祈願を社寺に命令、幕府は京都警護へ。

◎進まぬ台場築造

- ・幕府は大阪・堺・兵庫に台場を築造する計画を策定。
- ・旧堺港に北台場と南台場を築造。
- ・孝明天皇は幕府の対応に安堵、以降、台場築造は停滞。

◎台場築造ブーム

- ・日米修好通商条約の交渉中に朝幕関係が悪化、幕府は条約締結を断行。
- ・安政の大獄、桜田門外の変、一橋慶喜の復権、家茂の上洛など起こる。
- ・和田岬、湊川崎、天保山などに台場を築造。樟葉、梶原にも。

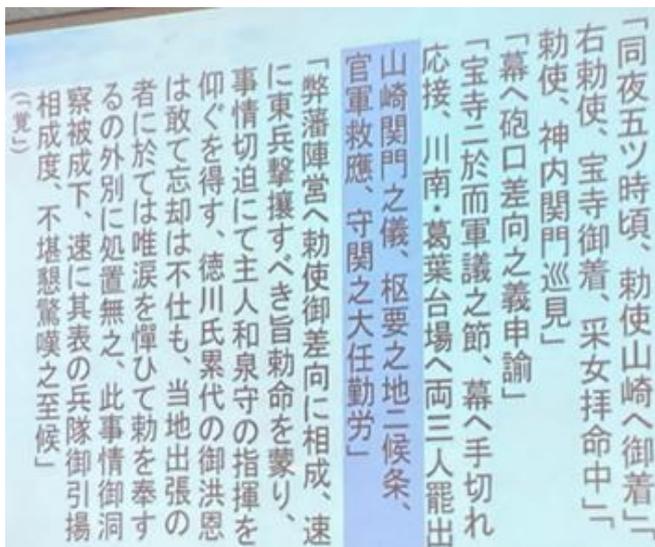
■樟葉・梶原台場を読み解く

◎京都守護職と樟葉・梶原台場

- ・文久3年4月（1863年）孝明天皇が家茂に「攘夷」を命ずる。
8月京都守護職を設置、松平容保が就任。
10月梶原台場予定地で杭打開始。のちに現在地に変更し再開。
- ・元治元年7月（1864年）禁門の変、長州は朝敵となる。11月梶原台場完成、翌年8月津藩（藤堂家）による供用開始。
- ・慶応3年10月14日（1867年）大政奉還。
- ・長州軍（朝敵）が京都に向かう。12月7日高槻藩籠城。8日長州軍芥川宿到着。
- ・12月9日 津藩は開戦を決意。王政復古の号令を知り、戦争を回避。
長州軍は無事台場を通過、京都へ。

■おわりに一王政復古・鳥羽伏見の戦い

- ・慶応4年1月3日（1868年）に起った鳥羽・伏見の戦いで旧幕府軍が敗れ、京街道を潰走。勅使より、津藩は敗軍が入った樟葉台場(酒井藩)を攻撃せよとの命。徳川家へ積年の恩顧に感謝を述べ、津藩は砲を淀川べりの高浜に運び、樟葉台場を砲撃…残念ながら、つまらぬ津藩への「ひやかし」は今も続いていると感じる。



やむなく樟葉台場を攻撃する津藩(藤堂家)の断腸の思いが綴られています。

梶原台場跡発掘調査現地説明会（26年2月27日）

<班活動>

午後は班別に3月13日(金)の「学習成果発表会」の最終打合せとリハーサルを行った。

付記：前回（2月①のトピックス）で「住本」とあるのは「桂本」の誤り。

（4班広報）